

International Development Center of Japan
国際開発センター

農業開発分野のモニタリングを考える
 ～マラウイ農業セクターの事例から～

昨今、一般財政支援、セクターワイドアプローチといった新たな援助モダリティの潮流が注目を集めるのと時をほぼ同じくして、国全体ないしは各セクターにおける開発の状況を、タイムリーかつリアルタイムにモニタリングすることが求められるようになりました。

その一方で、モニタリングという言葉を知ると、なんとなくわかったような気になりながらも、漠然としていて、なかなかイメージがつかめないという声も耳にします。私は、そんな時は常々、モニタリングを医学分野における「臨床検査」に例えてお話ししています。皆さんが病気になったり健康診断を受ける際などには、体重や体温を測ったり、尿や血液を採取したり、レントゲンやエコーを使って患部を投影したりしますが、開発分野におけるモニタリングも、まさにそれと同じこと。対象の分野が、現時点でどのような状態にあるのか、また以前と比べてどの程度改善されたのか、あるいは改善されなかったのかを明らかにするために、可能な限り客観的な指標を設定して定量的に計測します。一国の健康状態を診るという点で、開発のモニタリングは、医学分野と相通じるものがあるようです。

さて、このようなモニタリングにかかる技術支援に関して、弊社



ではこれまで、タンザニアにおける農業セクター開発プログラムのモニタリング能力強化、ネパールにおける政府のモニタリング評価制度構築といった技術協力プロジェクトを実施しております。これらの経験をもとに、2013年10月より、東南部アフリカのマラウイ（地図参照）

において、農業セクターのモニタリング制度を活性化させるための技術協力を携わっています。以下、その活動を通して得た知見の一端を簡単にご紹介しましょう。

マラウイ農業セクターでも、域内の近隣諸国と同様、セクターワイドアプローチの手法（現地での呼称：“Agricultural Sector Wide Approach ; ASWAp”）がとられています。また、マラウイの国家開発戦略である「マラウイ成長開発戦略II “Malawi Growth and Development Strategy II” ; MGDS II」においても、農業セクターは国家開発の柱として、優先分野の一つに掲げられています。他方、ASWApは、アフリカ諸国で近年、農業セクターの地域開発戦略として導入が進められている「包括的アフリカ農業開発プログラム “Comprehensive Africa Agriculture Development Programme ; CAADP”」に沿ったものとしても位置付けられています。

このように、アフリカ地域、国家、セクターと、各々のレベルでの戦略が錯綜する中で、農業セクターにおけるモニタリング指標を個々バラバラに選定していたのでは、効率的なモニタリング活動は望めません。実際のところ、目的を同じくする指標に対して異なる定義や様式が用いられていたり、定量的に取得するのが難しい指標が規定されていたりといった事例も散見されました。そこで、本技術協力では、併存する上位戦略との整合性を確保しながら、モニタリングのために最低限必要となる優先度の高いコア指標を、「ショートリスト指標」として設定することにしました。具体的には、インパクト指標を3つ、アウトカム指標を5つ、アウトプット指標を7つ、インプット指標を5つ、合計20の優先指標に思い切った絞り込みを行ったのです。このことによって、より現実的なモニタリングの仕組みが、ようやく動き出しはじまりました。

幸いなことに、この「ショートリスト指標」は、マラウイ政府、開発パートナーの双方から、セクター全体を俯瞰できるとして、概ね好感をもって迎えられています。今後さらに、データ収集体制の強化やモニタリング指標を活用した分析を推し進め、モニタリング制度の定着によりいっそう拍車がかかることを期待しています。

（文責：国際開発センター 研究員 安居 信之）